

時事新報の特派員

今度の朝鮮事件は其起因、東事黨の内訌なれども延て日清兩國の間に波瀾を生じ今後の成行は刮目して見るべきものあらん本社は此際の際を以て、詳かにして讀者に遺憾なからしめんが爲め左の各地に特派員を特派せり

- 朝鮮京城仁川間 高見 龜氏
朝鮮仁川 杉幾太郎氏
馬關 山崎知遠氏
石川 信氏

朝鮮國全圖の附録

朝鮮に關する報道は郵便を以て電信を以て續々新聞紙上に上るも地理を照合すべき地圖なくしては隔靴搔痒の歎なきを得ず由て本社は精細なる朝鮮國全圖を製し之を石版に印刷し

來る七月一日の附録

として平常の購讀者に配布すべし
當日新聞の定價 來る七月一日は朝鮮全圖の附録あるを以て當日の新聞は臨時の購者より定價四錢を申受くべし

時事新報

支那人の心算齟齬

せざるや否や

支那が朝鮮を屬邦視して曾に他國人に向て公言するのみならず苟も乘ず可きの機會あれば著々その内事に干渉して眞實附屬國たるの實を収めんとするの野心あるは年來の事實に徴して疑ふ可らず明治十五年の内訌には其國父たる大院君を捕へて之を本國に拘留し又十七年の變亂後其當時、兵に將たりし袁世凱を京城に駐在せしめて之に無限の權力を與へ陰に陽に政治に干渉して内治外交の大事件は殆んど其成を仰かじめたるが如き以て其意の在る所を知るに足るべし今東事黨の騒動に付き支那の出兵は朝鮮政府より請求したるよしに唱れども其實、袁の發意にして夫れとなく朝鮮政府の當局者を促して請求の手續を爲さしめたるは事實、疑なきが如し蓋し袁の意中にては支那の兵力を以て其内亂を鎮定するときは朝鮮政府は之を德として隨て支那の恩威はます、其國中に行はるゝのみならず間接には一般の他國に對しても屬邦たるの實を示して他日の口實を造るの地步とも爲る可し之を本國政府の當局者に建議し當局者も亦これを妙策なりと信じて援手を出兵の決断に及びたるもならず支那の爲めに謀れば成程至極の妙策なりならんやれども今の文明世界に斯る得手勝手妙策は容易に行はる可きに非ず彼の出兵の結果は偶然にも我國の出兵を促して然かも其決断の迅速にして實行の機敏なるは神兵天より降るの觀なきに非ず支那人等の思ひも奇らざる所にして驚愕ならん妙策なりに至りて妙を失し彼等の心算も定めて組織したるものとならん日本の出兵は自國の必要より決断したるものにして敢て他國の事に關するに非ずと雖も從來の關係と云ひ目下の地位と云ひ一方に於て兵を出すときは他の出兵を促すは自然の結果にして明白の成行なるは彼等は胸中に無限の野心を蓄ふるにも拘はらず曾て此邊に思ひ至らざりしか自から得手勝手の手を以てながら他の出兵を促して今更ら狼狽は只憫笑の外なきのみ彼が第一の心算は既に齟齬したり更に如何なる手段あるやと云ふに彼の政府は手を換へ品を換へて頻りに日本兵の撤去を要求しつゝあるよし思ふに日本政府は彼の要求に對して必ず斷然たる決答を與へたるもならずと雖も彼が今日の手段は百方、手を盡し何ぞかして日本兵を撤去せしむるの一事を勉むるもならず即ち一方には例の虚喝手段を用ひ幾千の兵を發したり云々の用意に着手したりなご大に聲威を張りて脅嚇を試み一方には外國公使を以て泣いて頻りに其周旋を求め外國人の助を假りて所望を達せんとする手段に出るもならずかなれども彼が虚喝手段は毎度の事にして之に欺かるゝものはある可らず況んや之を以て日本男子に擬せんとするが如き實に淺蕪なる手段にして只一笑に付す可きのみ又外國人中には或は支那の爲めに代言を試みるものもあらんかなれども日本の出兵は自國の必要に出でたるものなれば撤するも撤せざるも我が自由にして他人の容喙を許す可きに非ず假令何國の人が來り求むるも亦あるも我に於て駐兵の必要を認むる限りは無益の勞にあらざれば決して一兵も減す可きに非ざれば彼等が折角の手段も水泡に歸して再び心算の齟齬を見るもならず重々氣の毒の次第にして茲に至りて彼等は果して如何なる手段に出づ可きや今日までの行掛りよりすれば最早や最後の決心を定むるの外なきもならずならんやれども他に對して事を求めんとするも正當の理由なきを如何せん、或は強ひて口實を造り無理に求むる所あらんとするも機先、既に人に在り萬が一にも勝算なきを如何せん然れども若しも自から其力を盡らすして漫に端を開くに至らんか隣國の事に干渉するが如きは姑く擱き自國の運命さへも憂慮なきものある可し事、茲に至れば最初の心算は全く齟齬するのみか案外の結果を見ざるを得ず今後彼等の手段は果して何れに出づ可きや我輩の悠々見物せんを欲する所なり

雜報

朝鮮特報

京城六月十九日午後十二時發

● 韓曆十三日夜 招討使電報
● 東徒之散屯各處者皆聚于泰仁邑盡納軍器于官庫自願退歸而或投戎師一例盡散更無聚屯處從此東徒盡平萬幸

● 雲業の爲め五月一日仁川發、全羅道林川、古阜、黃山、江界邊を打廻り本月六日與德着、九日與德縣を發し十二里を歩いて十五日郡山着、十六日午前顯益號に便乗し十七日午後歸港せり
● 一途中支那兵の如きものは勿論支那人にも出會はざりし
● 日本人には與德に於て釜山より行商せるもの三名に出會せり
● 一本月一日頃より與德地方十餘里内外靜穩にして更に民亂の噂さだもなく六日頃迄は全州に亂民入り込み居るとの説ありしが其後五六日を過ぎて亂民も全州より散亂したるものと開込めり
● 五月九日顯益號にて郡山へ向け出發したる仁川兵五十餘人と野戰砲二門は郡山着の儘上陸せず其後全州監營よりの命令にて本月十六日郡山より直ちに歸港せり
● 一與德は縣監あれども最初より何れも通走せず今日とても依然在署せり
● 一麥作は一般に上出来にて米も近來降雨の爲め植へ付けも出来此の分なれば豐作ならんと云へり
● 支那人の京城立ち退きは事實、支那人の内にて弗々京城を立ち退きたるものありし趣を前報に掲げたが右は急事事實にして去る十八日午前十三時三十分より午後二時十分迄の間に南大門を通り越して立退きたるものは

人員表
男 二十二名
女 二十一名
荷物總數 六十四個

● 英國公使館の照會 目下仁川港にある兵士の内にて外國居留地内に宿泊するものあり是は如何なる場合にやとて英國公使館より照會し來りたりとの噂あり
● 預言者清國公使館に入り込む 一兩日前見るも猶ほしき老嫗より以下は水も平る計りに濡れたる儘突然清國公使館に入り來る巡查之を誰何し且つ入館を拒絶せんとせり老嫗曰く妾は袁公使に向つて直に言上せんとするも何卒その旨袁公使に申入れられぬと云ふは尙ほ之を信ぜず且つ言上せんとする大略を聞かんや乞ふ老嫗曰く一兩日前江原道春川(閔泳駿の父の在る處)より一羽の鳥飛び來り上國變爲下國、下國變爲上國、可嘆、可嘆と告ぐ妾の袁公使に言上せんとするものは即ち是れなり云々と告げたるに巡查は之を公使館内に引き入れたるなり
● 大島公使有志者を招く 大島公使は今夕居留民の重立

● 府下第八撰舉區
● 坂神兩地對外硬
● 銀貨交換
● 地方官會議

● 府下第八撰舉區
口卯吉、林和一の兩氏に孝助氏は未だ何れも中絶し居るものゝ如し山口氏は本年二月の總撰舉に谷區の阿部孝助氏と競争にして主義に於ても大差運動を中止し中和會の名で今國會議の解散に導き意あらば兎も然らずと云ひ置き効かたに其越さるるに着手せしめたり山口氏を推挙するものと決したるに志者も會合し石崎政蔵以てりみれど兩派の腹を離れ青木氏と林氏の關係より當選せしも今回は官立

○ 新聞紙の發行時間
○ 郵便物の配達時間
○ 電話の通話時間
○ 電報の發送時間
○ 銀行の営業時間
○ 官公廳の受付時間
○ 裁判所の開庭時間
○ 學校の始業時間
○ 商店の始業時間
○ 市場の始業時間
○ 浴場の始業時間
○ 温泉の始業時間
○ 遊園地の始業時間
○ 動物園の始業時間
○ 博物館の始業時間
○ 図書館の始業時間
○ 公民館の始業時間
○ 青年會の始業時間
○ 婦人會の始業時間
○ 老人會の始業時間
○ 少年會の始業時間
○ 青年會の始業時間
○ 婦人會の始業時間
○ 老人會の始業時間
○ 少年會の始業時間